

# 令和6年盆施餓鬼会のご案内

合掌 今年のお盆も8月の**第一日曜日**に行いますのでよろしくお願い致します。一昨年までは**第三日曜日**にやっていたのですが、これですと今年もそうですがお盆(8月13～16日)を過ぎてしまうことが多々ありました。勿論過ぎてから祈っても、我々の想いは故人らに届くと思っています。しかし、やはり皆様方が精霊棚を作ったり、お墓を綺麗にしたり、というのは「故人達が帰ってくる準備」という側面を持つことも事実ですのでこれからも盆前にできる**第一日曜日**に行っていきたいと思えます。

また、**新盆の方**に関しては同封した資料にもあるように**ご自宅に何う棚経**と下記のお盆の**法要**への参加を電話にてご案内します。私の携帯番号(090-9335-8536)から電話をかけますので来た場合はお寺から連絡が来たと思って頂ければ幸いです。もし万一、連絡来ない場合はお寺の方までお問合せ下さい。今月下旬から**順次新盆に該当する方**には連絡をいれて棚経参りの日程を調整していきます。その際、**土日**にいれることが多い為、もし**7月、8月に回忌法要**などをお考えの方は**お早めにご連絡**ください。

なお、お塔婆書きでございすが書き上げるまでに相応の時間がかかります。その為、申込み期限は例年同様、**法要一週間前の7月28日(日)**とさせてます。できるだけ早めのお申し込みを頂ければ幸いです。

また、例年の護寺会費報告の他に昨年もお呼びした「**日蓮宗布教師研修生**」の法話をして頂く予定です。**今年**は**茨城の僧侶が講師として参加**しております。毎年、日蓮宗布教研修所は松戸の本土寺に設置されているのですが茨城県で一番近いお寺が当寺院です。そういう繋がりもあり、今年も例年よりも研修生の方により**一層ご協力**をさせて頂こうと思っています。その為、現在も調整中ですが若干、時間変動致します。

記

○日時：**8月4日(日)** 午前11時00分より布教師研修生による法話  
午前11時30分より総代からの護寺会報告  
午前11時40分より法要(法要後、お弁当はあり)  
※**食べていくか持ち帰るかは自由**になります。

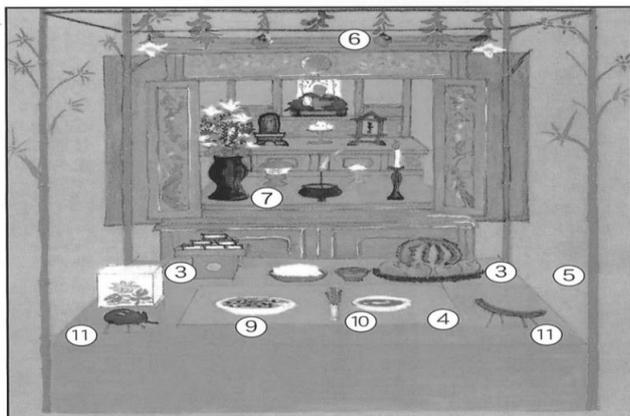
○参加料：1名につき3000円 お布施です  
(未成年は無料)

○塔婆料：1件につき3000円 戒名(法名)並びに施主名を明記  
出席やお塔婆を希望する方は別紙申込書を7月28日(日)までにお送り下さい。

○服装：**新盆の方も含めて平服で結構**です。当日エアコンはありますが暑くなるのが予想されますので**涼しい服装**でお越しください。(マスクは自由ですが、熱中症などを考慮してお寺としては外されることを推奨します)

# 盆施餓鬼供養説明

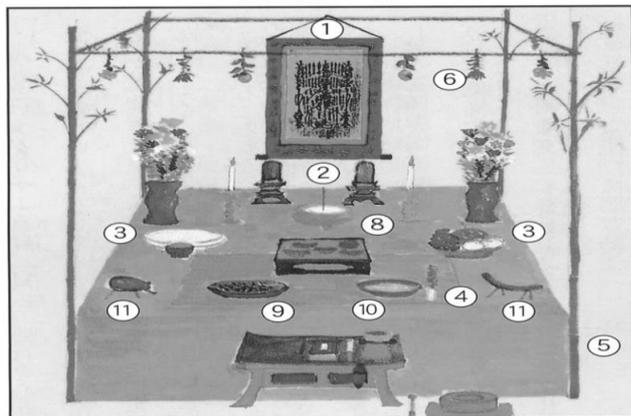
仏壇を用いた飾り方の一例



- ③ お供物―麺類、水菓子、果物など
- ④ マコモのゴザ
- ⑤ 青竹
- ⑥ ほうずきの他、季節の花を吊るす。
- ⑦ 三具足―左から華・香炉(中心)・灯明の順
- ⑧ 五具足―外側に華、その内側に灯明、中心には香炉の順
- ⑨ 水の子―茄子、キュウリを細かくきざみ、洗米を混ぜて鉢に入れます。
- ⑩ 水器(灑水盤)―器に蓮の葉を敷いて、水を入れ、みそはぎの葉を束ねて置きます。
- ⑪ キュウリの馬と茄子の牛―御先祖様の乗り物。迎えは早く、帰りはお土産を持ってゆつくりと。

※飾り方は地域によって変わる事があります。

精霊棚の一例



- ① お曼荼羅
- ② お位牌
- ③ お供物―麺類、水菓子、果物など
- ④ マコモのゴザ
- ⑤ 青竹
- ⑥ ほうずきの他、季節の花を吊るす。
- ⑦ 三具足―左から華・香炉(中心)・灯明の順
- ⑧ 五具足―外側に華、その内側に灯明、中心には香炉の順

## 精霊棚を飾りましょう

精霊棚は、お盆の間御先祖様がお泊りになる所です。感謝の心をこめて飾りましょう。

※あくまで日蓮宗の一例です。個人的には下記の由来に基づき、水の供養とお経を上げれば良いと思っています。全てやらずとも一部だけでも十分です。

故人達が8月13～16日（地域によって伝えられている時期はズレます）の間は我々の元に帰ってきて一緒に過ごす、というのがお盆の意味合いです。その際にお寺としては故人達だけでなく、広く供養しましょうということを伝えています。何故でしょうか。様々理由はあるのですが、皆様に一番身近な理由は故人達が帰ってきた際に過ごしやすくする為だと伝えています。

故人らが普段いる仏の世界というのは落ち着いた世界であり、皆が支えあって我々のことを見守っている世界だと言われています。（仏教に曰く：穏やかで静かな林の中）

では我々の世界はどうでしょう。悩み苦しみが溢れ、それらは尽きることなく、新たな火種としてますます燃え盛っていく世界です。（仏教に曰く：燃え盛る炎に包まれた建物の中）

こちらに故人らが帰ってくるのなら、なるべくその炎（煩惱や欲望、悩み苦しみ）を消して、居心地良くしておこうというのが理由の一つです。炎は一部だけ消しても意味がありません。自分や家族だけでなく、なるべく周囲まで含めて炎を消すため、縁のある方や飢えている方にも広く供養しましょうと伝えています。